

わかめ養殖の碑

三陸沿岸の漁の幸である養殖わかめは春の到来と共に人々に恵みを与えろこのわかめ養殖発祥と企業化を語るときその先駆者として小松藤蔵氏を挙げなければならぬ氏は大正五年十月一日気仙郡末崎村門之浜に生まれ尋常高等小学校卒業業紅顔十四歳にして漁業に志をたてろ戦後の疲弊した漁村の苦難にあえぐ漁民の暮らしを打開するため昭和二十八年私財を投じ特に天然わかめからの人工採苗方法を考案しあらゆる困難と試行錯誤の結果昭和三十三年企業化成功を果たしたまた爾子「わかめ養殖方法について」を自費刊行三陸沿岸を普及行脚し将来大量生産時代到来を予測自ら先頭に立ち販路拡張のため日本各地を奔走した氏の生涯はひたすら漁民と共に喜び悲しみを分かち合い私を去り公に奉仕され名実共に斯界の称賛を集め末崎漁業協同組合組合長理事等多くの要職を歴任されるよって我らは故人の遺徳を偲びその業績をとこしえに伝えるため漁民有志に相談ってわかめ養殖漁場を一望できるこの地に顕彰の碑を建立するものである